

季刊

# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 80

春の企画展

クロニクル  
「馬と人との年代記」  
～大陸から日本、そして福島へ～

福島県立博物館



騎馬俑 中国出土 漢代 (所蔵・写真提供 馬の博物館)

馬は、ごく最近まで人々にとって身近な存在でした。特に福島県は野馬追や三春駒など伝統的な馬文化が色濃く残っている土地でもあります。では、馬はいつから人に飼われ、また、どのようにして様々な方面で活躍し始めたのでしょうか。さらには日本には元々馬がいたのでしょうか。今回の展覧会では、主に遺跡から掘り出された考古遺物によって、馬がいつ、どのようにして日本、そしてふくしまへ入り、利用され始めたのかを探ります。馬は近年急速に人々の周りから姿を消しています。なぜ人が馬を利用するようになり、長い年月を共に暮らし、そして消えていったのか、馬は現代の世相を深く考える機会も与えてくれると思えるのです。

さて、次の質問の答えがお分かりになるでしょうか。

- ①人が馬に乗るようになったのはいつ？
- ②車馬の時代に馬はいた？
- ③古代の馬の大きさはサラブレッドとポニー、どちらに近い？
- ④絵馬を神社に納めるのはなぜ？

答えは、ぜひ会場で！

**展示構成**

フロア① 年代記(クロニクル)への招待  
馬頭琴の調べと「スーホの白い馬」の世界で、馬と人との年代記へ誘います。

第一編「大陸編」紀元前〜馬と人との出会い  
馬と人との繋がりは、いつ、どこで、どのようにして始まったのか。遠く西アジアや中国など、大陸より出土した考古遺物から探ります。

第二編「渡来編」五世紀〜そして、日本へ  
車馬の時代に馬はいなかった!? わが国に馬が入ってきたのはいつか。どのように広まり、そして利用されたのか。本編で明らかになります。

第三編「威信編」六・七世紀〜権威の象徴  
「日本書紀」推古天皇十六年条に「遺飾騎七十五匹、而迎唐客」とあります。この時代、さらびやかな馬具を身につけた馬は、権威を象徴する存在でもありました。

第四編「拡大編」八〜一六世紀〜交通・信仰、そして戦争  
神社に奉納する絵馬。現在に残るこの信仰は、おそらくこの頃生まれました。また、馬は交通・通信の主役となります。そして、戦争の道具としても…

特別編「追憶編」二〜一世紀〜身近にみる馬  
相馬野馬追、三春駒、福島競馬場…。現代に至るまで、福島県は馬と深いつながりがあります。郷土の馬文化を振り返り、身近な馬の存在を感じます。

エピソード 未来へ  
馬の持つスピード&パワーは化石燃料、そしてデジタルへと置き換わってきています。馬を凌ぐ能力を手に入れた人類に、この先待っている未来とは…

春の企画展

ク ロ ニ ク ル  
「馬と人との年代記」

～大陸から日本、そして福島へ～

●会期 平成18年4月22日(土)ー6月11日(日)



馬形飾り付冠  
茨城県三味塚古墳出土 5世紀  
(所蔵・写真提供 茨城県立歴史館) ※展示は黄金色の複製品



馬形鏡板付き轡  
イラン ルリスタン地方出土 紀元前1千年紀前半  
(所蔵・写真提供 中近東文化センター)

**企画展関連イベント**

馬頭琴コンサート 「白馬」  
日時：四月二十九日(土・祝) 午後一時三〇分〜二時三〇分  
演奏者：バヤラト&サローラ

あなたも馬博士に！ 記念講演会「馬がウマれて日本にくるまで」  
日時：五月一日(日) 午後一時三〇分〜三時  
講師：穴沢味光氏(福島県考古学会副会長、京都大学人文科学奨励賞受賞)  
博物館友の会協賛イベント「馬と猿との年代記」  
日時：六月八日(木) 午後一時〇〇分〜  
第一部 公演「猿まわし一座がやってきた!」  
出演：周防猿まわしの会  
第二部 対談「馬をめぐるフオークシア」  
館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

古代の馬を知ろう! 学芸員の「やさしい馬講座」  
日時：五月七日(日) 午後一時三〇分〜三時 横須賀倫達「日本書紀と馬の考古学」  
日時：六月四日(日) 午後一時三〇分〜三時 木本元治 「馬鹿」の語源〜古代中国の馬と故事成語〜  
探検! 馬の世界 学芸員と巡る展示ツアー  
四月二十九日 五月七・一四日 六月四・一一日  
各回午後三時一五分〜 一時間程度(※六月二日のみ午後一時三〇分〜)

**特設コーナー**

・三冠馬 デイブインパクト(全身模型)と記念撮影!!  
※四月二六日(水)〜五月一〇日(水) 限定!  
・乗ってみよう古墳時代の馬  
黄金色に輝く馬具(復元品)を身につけた古墳時代の馬。背中に乗って王の気分を味わえます(小学生以下限定)。  
・馬(ウマ)く遊べるかな!?  
かんかん馬から馬頭琴まで、馬のおもちゃを集めてみました。  
・聞いてみよう、遥か三千年前の音色  
約三千年前、中国の馬車に付けられた鈴の音が聞けます。  
※会津名物、桜肉料理を味わおう!  
展示期間中限定! 博物館のレストランで桜肉(馬肉)料理をご賞味あれ。



絵馬 宮城県市川橋遺跡出土 9世紀  
(所蔵・写真提供 多賀城市教育委員会)



金銅馬具の復元品と復元馬  
復元元：福島県筑内古墳群出土 7世紀  
(所蔵・写真提供 まほろん)  
※子供さんは実際に乗れます!



野馬追図屏風(一部) 近世  
(所蔵・写真提供 南相馬市博物館)

■春の企画展「馬と人との年代記」〜大陸から日本、そして福島へ〜は、平成一八年四月二二日(土)から六月二一日(日)まで開催しています。  
■観覧料 一般・大学生五〇〇円(四〇〇円) / 高校生三〇〇円(二四〇円) / 小・中学生二〇〇円(一六〇円) (一)は二〇名以上の団体の場合の料金です。

# 館内に生息する虫を調査し 館内における虫の動きを予見し 効果的な駆除法を研究する

松田隆嗣 保存担当

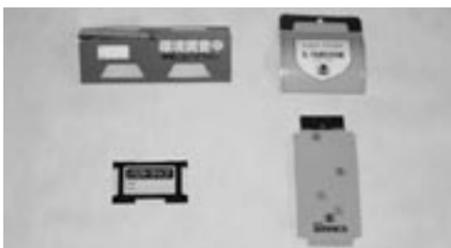
当館では、展示・収蔵資料を虫やカビの害から守るため毎年一回、虫の活動が活発になり始める初夏に全館燻蒸を実施し資料を虫やカビの害から守ってきました。しかし、燻蒸剤の成分である臭化メチルのオゾン層破壊の問題や全館燻蒸により資料や展示室の壁材や床材などに吸収された燻蒸剤が燻蒸後に少しずつ室内に揮散することによる室内汚染の問題などから平成十一年度で全館燻蒸を取りやめ、これにかわって、平成十二年度から総合的有害生物(害虫)管理(一般的にはIPM(Integrated Pest Management))と呼ばれている方法への切り替えを行いました。この方法は、解り易く説明しますと様々な手段を用いて有害生物(博物館の場合は主に文化財害虫)の数を被害の生じない程度にコントロールしていることとする方法です。具体的には、①施設や日常作業での問題点の洗い出し ②虫やカビの発生原因となるものを置かない(あるいは取り除く) ③虫などの進入経路を発見し断つ ④虫やカビなどの発生の早期発見 ⑤虫・カビなどの対策の改善などを行うことで虫やカビの害をコントロールしようとするものです。

一般的には専門の業者に館内に生息する虫やカビの調査を委託しその結果をもとに対策を進めます。当館でもIPMの導入に当たり施設の問題点や虫の進入経路の推測・確認及び虫やカビの生息状況の調査区域の設定を行いました。虫の生息状況の調査は、虫を捕まえる道具(フェロモントラップや粘着トラップなど)を館内に設置し生息している虫を捕獲し、虫の捕獲場所・捕獲した

虫の種類・数などを調査することから始まります。これまでも、職員が館内で虫やカビの発生を見つけた場合、捕獲あるいは発見の情報を保存科学の担当者に連絡あるいは捕獲された虫が届けられました。このため、ある程度、虫やカビの状況は把握していましたがこれらの情報だけでは十分といえるものではありませんでした。委託調査は当初年三回行っていました。二週間から四週間程度のため各調査結果も館内に生息する虫の一面を表しているにすぎません。このため、IPMを導入した当初は、館内で確認された文化財害虫を駆除するという受身的な対応しか取れませんでした。

確認された虫の対処法としては、確認された場所を清掃や整理したのち再度トラップを設置し虫の捕獲を行うという方法で対処しました。この捕獲を目的としたトラップの設置は館独自に行うものであり文化財害虫や虫が多数確認された場所に重点的にトラップを多く配置し虫の捕獲を行います。多くの場合はこのような手順で行うことにより一応の成果をあげています。

しかし、毎年毎年積み重ねられた調査データや捕獲のデータを分析することにより少しずつではありますが文化財害虫の動きが明らかになってきています。文化財害虫についてみると、調査のたびに館内の何箇所かで捕獲されます。毎回必ず発見されるという場所は無いことから館内で世代を重ねているということも考えられます。あくまでもたまたま何かに付着してあるいは開口部から進入したと考えるのが適切です。文化財害虫以外では、クモが数多く捕獲されました。展示室、収蔵庫では殆ど捕獲されませんが、事務室、研究室などでは数多く捕獲され館内で何世代も重ねていると考えられました。クモは、



虫の調査・捕獲に用いられる各種トラップ  
写真向って左のふたつが歩行性昆虫(床に置いて歩いている虫を捕える)用のトラップ  
向って右のふたつがフェロモン(フェロモンで雄の虫を誘引し捕える)トラップ  
この他にもいくつかのトラップを用いて虫を捕獲している



環境調査の風景  
奥の壁にフェロモントラップが設置されている

職員の目視ではそれほど確認されておらずトラップによる捕獲により確認されたものです。クモは、文化財害虫ではありませんが不快害虫としての問題と館内で生育しているクモが死んだ場合その死骸自体が文化財害虫であるカツオブシムシなどの発生を助長するため駆除の方法についてさまざまな手段を検討しました。薬剤を使用せず駆除することを念頭にいたため当初は適切な駆除が見つからず苦労しましたが、絶え間なくトラップを設置することにより薬剤を使用せず効果的にクモを駆除できることが明らかとなりました。

これらの結果は、あくまでも当館における文化財害虫の生息状況や対処についての話にすぎません。しかし、このIPM法は、全館燻蒸に替わる方法として多くの博物館や資料館において注目あるいは導入の検討がなされていますが、反面、国内の博物館におけるその効果や対処法についてのデータがほとんどなく、多くの博物館や資料館では導入に至っていないのが現状です。このため、当館における虫の問題を明らかにし、効果的に虫を駆除する方法を研究することは当館以外の博物館や資料館における資料保存にとっても重要なことといえます。

Q・戦後六〇年だった昨年、戦争を取り上げた番組を見て、多くの都市が空襲の被害を受けていることを知りました。日本の空襲の概要について少し詳しく教えてください。

A・空襲というと、B29爆撃機による東京大空襲や広島・長崎の原子爆弾の投下が広く知られています。日本本土への初空襲は一九四二年四月一日、日本から約千二〇〇km離れた太平洋上のアメリカ空母から飛び立ったB25爆撃機一六機によって行われました。この空襲で東京・川崎・横須賀・名古屋・神戸などが爆撃され、約五〇名の犠牲者を出しました。攻撃後B25爆撃機は中国大陸方面に飛び去る、という完全な奇襲攻撃でした。

五年三月四日までの時期です。この時の空襲は日本の軍需工場の破壊が目的で、昼間に高度七千メートル以上の上空から爆弾を使って行われました。そして第二期は一九四五年三月一日の東京大空襲を皮切りに大都市を狙った焼夷弾による夜間無差別空襲が行われた時期です。東京大空襲での犠牲者は約一〇万人にのぼるといわれています。このような空襲は一九四五年六月一日まで行われました。最後の第三期は一九四五年六月一七日から終戦の日まで行われた日本の中小都市を狙った空襲です。この空襲では一回の攻撃で平均四都市が標的にされ、大きな被害が出ました。

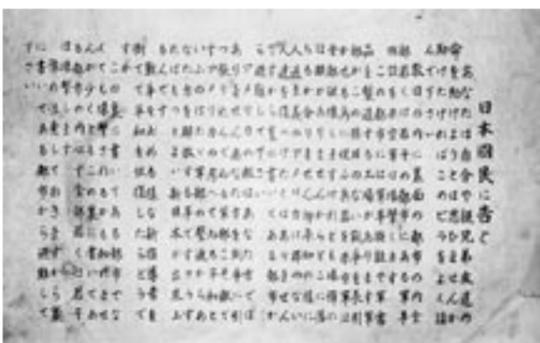
## Q&A

回答者  
歴史担当  
関口 功

Q・日本への空襲を行ったB29爆撃機や焼夷弾はどのようなものだったのですか？

A・まずB29ですが、全幅約四三m、全長約三〇m、定員一名、当時としては世界最大の航空機で「超空の要塞」と異名をとり、恐れられました。エンジンは四つで、高度一万メートルの上空をも飛行することができ、四tの爆弾を積んで五千km以上の航続距離がありました。

次に焼夷弾についてですが、爆弾が爆発力によって建造物などを破壊するのが目的であるのに対し、焼夷弾は周辺を延



「米軍ビラ」福島市 菅家光司氏蔵

# 空襲

その後日本本土を狙った空襲はしばらく行われませんでした。一九四四年六月一日未明、中国成都基地から飛び立ったB29による最初の空襲が行われました。中国成都基地からの空襲はB29の航続距離の関係から北九州地区を狙って計一〇回行われました。

その後一九四四年七月から八月にかけてサイパン・グアム・テニアンなど、マリアナ諸島がアメリカ軍に占領されると、そこからB29による日本本土への本格的な空襲が始まります。このマリアナ基地からの空襲は方法・目的により大まかに三つの時期に区分することが出来ます。

## 一年にわたる

# 「木曜の広場」―会津学事始め― を振り返って

赤坂館長と学芸員の対談形式で行われる「木曜の広場」は、平成一六年度は「会津学事始め―四季の生業と暮らし―」全一―二回が行われました。今年度は、「会津学事始め」の第二弾として「四季の祈りと暮らし」と題し、信仰を中心とした精神文化から会津の歴史・民俗をひもとくというものでした。

平成一七年度の「木曜の広場」では、昨年度に比べ聴講者が一・五倍にも増えるなど、多くの人々の関心呼びました。これまでの取り組みについて、赤坂館長と学芸員および聴講者からの感想を紹介いたします。

### 滝沢洋之さん

佐々木さんの実証的な民俗データを館長がうまく引き出していたと思います。また、聴講者からの質問や意見、情報提供によって内容に深まりが出てきたような気がします。これは、お互いの理解を深めるのに大いに効果的であったと思います。また、

博物館に集った様々な人々が自由意見交換できたことから「木曜の広場」というにふさわしい会になっていったと思います。一番印象に残っているのは、「飯豊山信仰」で、あめるときは、実際に飯豊山登拝している人や地元の人からも意見が出されました。また、遠く白河から来られた方の意見も出てきました。北会津から来られた人が、北会津での飯豊山信仰の実際を体験に基づいて話されていました。蓮華寺で、登拝前一週間くらい、籠もり精進し水ごりをとる。その時、寺にしたためられた江戸時代からの落書きの話など、どれもみなうならせる話ばかりでした。



聴講者・滝沢洋之さん

\*平成一六年度の聴講者に比べ、平成一七年度の聴講者がほぼ一・五倍に増えたことについて滝沢さんは次のように語っておられました。  
「会津は歴史に関心の深い人は多いですが、民俗については今一つでした。しかし、赤坂館長と佐々木さんの二人が紡ぎ出す会津の民俗の世界に、しだいに人々の心が惹き付けられていったということじゃないかと思っています」

### 学芸員 佐々木長生

これまでの講演会のように、自分の研究成果を発表して終わり、というのではなく、「館長の視点」という新たな見方・考え方が加わることで、これまで自分が気づけなかった点を多く発見することができました。これは、自分の考えをより深めるのに役立つと思います。

また、木曜の広場を二四回行ってきたということは、二四の角度から会津を見ることができたということになり、会津の人々の暮らしと文化がこれまで以上に良く見えてきた気がします。私のこれまでの民俗研究では、生活用具を中心に会津の民俗を見てきました。しかし、今回「磐梯山信仰」「飯豊山信仰」「稲荷

信仰」などのように、精神的な面にスポットを当てて取り組む機会を与えられたことは、会津民俗のさらに深く深い部分に光を当てたようで、とても勉強になりました。

### 館長 赤坂憲雄

私自身、これまで福島のことや会津のことをあまりよく知りませんでした。だから、木曜の広場では入門者となって、佐々木さんという先生に導いてもらおうと思っていました。佐々木さんが蓄積してきた膨大な知識の一端を披露してもらって、それに触れていると、私がかれこれ東北や日本をフィールドにして見たり聞いたり調べたりしてきたことが、どんどん浮かんでくるのです。例えば、東北の北の方ではこんな形だけど、関東ではこんな風だという具合に。だから、単なる聞き手に止まっていられなくなつて、私の頭に浮かんだことを、佐々木さんにまた投げかける、するとそれにまた応答してくれる。私にとつて、このシナリオ無しで会津を軸にした知識とイメージのキャッチボールはとてもスリリングで楽しいものでした。

私にとって二年間の木曜の広場は、会津の底知れぬ魅力に直

に触れることのできる場でもありました。言い換えると、会津地域の歴史や文化の面白さに触れることができたとても贅沢な場でした。この道先案内人が佐々木さんであったというわけですが、本当にいい人に出会えてよかったです。



佐々木長生学芸員(左)と赤坂憲雄館長(右)



「鶴ヶ城周辺の稲荷信仰」の聴講者

## トピックス

### 平成一八年度

# 「木曜の広場」のご案内

当館は開館二〇年を迎え、常設展示も大勢の方々にご覧頂いています。しかし、展示資料の裏に隠された豊かな広がりにはなかなか感じ取ることが難しいです。また、当館には開館以来二〇年にわたる研究の蓄積もあります。そこで、平成一八年度は「あの展示から見えてくる世界には、どんな広がりがあるのか。どんな深さがあるのか。どんな豊かさがあるのか」を指針に聴講者の皆さんと一緒に展示資料の背後の世界に思いを馳せてみたいと考えています。

講座の形式は、これまでの「木曜の広場」同様、当館館長赤坂憲雄と各分野の学芸員とが対談するという形で進めていきます。また、聴講者の皆さんからの質問や意見も積極的に取り上げ「広場」にふさわしい雰囲気と福島県立博物館の魅力を感じられる限り引き出せる時間になりたいと思います。ぜひご来館くださいませようご案内申し上げます。

### 平成一八年度 木曜の広場「博物館再発見」

- |                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| 四月二〇日「磐梯山の噴火」                 | 学芸員 竹谷陽二郎 |
| 五月一日「近世の絵画 会津と白河」             | 学芸員 川延 安直 |
| 六月十五日「大名の学問」                  | 学芸員 小林めぐみ |
| 七月二〇日「近世」展示を解剖する              | 学芸員 佐治 靖  |
| 八月二七日「会津のオンバさま」               | 学芸員 榎 陽介  |
| 九月二二日「戦争と人々の暮らし」              | 学芸員 関口 功  |
| 一〇月一九日「城下のくらし」                | 学芸員 阿部 綾子 |
| 十一月二六日「板碑について」                | 学芸員 高橋 充  |
| 十二月二二日「恵日寺絵図を読む」              | 学芸員 木田 浩  |
| 一月一八日「大陸からふくしまへ」              | 学芸員 横須賀倫達 |
| 二月一五日「弥生の中の縄文」                | 学芸員 高橋 満  |
| 三月一五日「縄文人の信仰―土偶と土器から―学芸員 森 幸彦 | 学芸員 森 幸彦  |

※講座は全て館長の赤坂憲雄と各担当の学芸員で行います。

最終回「縄文人の信仰」では、私と館長が知られざる縄文人の「こころ」を解き明かしていきます。



福島市上岡遺跡出土土偶

縄文時代のどくう。よく見ると、おっぱいがあり、お腹がふくらんでいます。妊娠した女性の表現なのでしょう。縄文時代の人たちは、なぜ、このような人形を作ったのでしょうか？「いのち」を宿し、「いのち」を産み出す人形。素材は「土」。「母なる大地」。「大地」が産み出すものは？。そう、「いのち」…めぐるめぐるよ「いのち」はめぐる…ぐるぐる渦巻「いのち」はめぐる…産み出された「いのち」の末端はだれ？…そう、あなたです。キーワードは「いのち」。

考古分野学芸員 森 幸彦

### 夏の企画展 予告

# 布の声をきく

## 展示会の構成

- 布を作る  
カラムシや麻、シナそれから綿や羊毛といった素材を取り上げます。
- 布を裁つ・布を縫う  
布を加工する裁縫の世界に注目して見ます。
- 布をまとう  
とくに仕事着に焦点をあて、県内をはじめ東北各地の資料を展示します。

布は人の体をやさしく包んで護ってくれます。しかし、人々は布の機能に満足することなく、同時に美しさも追い求めたのです。私たちの祖先は、布地を重ね麻糸で刺すことにより丈夫で暖かい衣服へと変身させ、さらに新たな「美」さえ見出したのです。

この展示会では、仕事着などの衣類をその用と美の二つの方向からみつめ、布を成り立たせている糸・織維の世界をめぐり、布地を裁ち縫い上げる女性の業にも注目します。「布の世界」からの呼びかけに耳を傾けてみてはいかがでしょうか。



仕事着と糸つくりの道具

■夏の企画展「布の声をきく」は、平成一八年七月二日(土)から九月三日(日)まで

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「収蔵品による福島の美術工芸」
会期 四月一日(土)から五月四日(日)まで
「画題で見る美術―祭りと行事―」
会期 五月一日(火)から六月二十五日(日)まで

講演・講座

※は要申込

◎企画展関連行事

◎馬頭琴コンサート
「白い馬」
演奏者 バヤラト&サローラ
日時 四月二十九日(土) 祝午後一時半～二時半

◎講演会
「馬がウマれて日本にくるまで」
講師 福島県考古学会副会長 穴沢味光さん
日時 五月一日(日) 午後一時半～三時

◎博物館友の会協賛イベント
「馬と猿の年代記」
第一部 公演「猿まわし」座がやってきた
出演 周防猿まわしの会

◎学芸員の「やさしい馬講座」
第一回 「日本書紀と馬の考古学」
講師 学芸員 横須賀倫達
日時 五月七日(日) 午後一時半～三時

◎展示解説会
「馬鹿」の語源
講師 学芸員 木本元治
日時 六月四日(日) 午後一時半～三時

◎美術講座
「近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド1」
講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

「近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド1」
講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 四月二十八日(金) 午後一時半～三時
「近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド2」
松平正定信像と「集古十種」
講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 五月九日(金) 午後一時半～三時
「近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド3」
浦上玉堂と七絃琴
講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 六月六日(金) 午後一時半～三時
※「やきもの本質を知る」
―宗像窯で作るMY茶碗―
講師 宗像窯八代当主 宗像利浩さん 他一名

◎民俗学講座
記録映像をみる1 「只見川流域の雑流し」(仮)
講師 学芸員 榎陽介
日時 五月二日(火) 午後一時半～三時

◎自然史講座
「化石をさがそう」(塙町)
講師 学芸員 竹谷陽二郎
日時 五月二七日(土) 午前八時半～四時半

◎土津神社と会津松平家
講師 学芸員 高橋充
日時 六月一日(土) 午後一時半～三時

◎野外・会津美里町史跡向羽黒山城跡
講師 学芸員 高橋充 ほか
日時 五月二〇日(土) 午後一時半～三時半

◎「このぼりづくり」(仮)
講師 展示解説員
日時 五月五日(金) 午前九時半～四時半

木曜の広場

場所 講堂 入場無料

博物館再発見

◎第一回
「磐梯山の噴火」
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 竹谷陽二郎
日時 四月二〇日(木) 午後一時半～三時

◎第二回
「近世の絵画 会津と白河」
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 川延安直
日時 五月一八日(木) 午後一時半～三時

◎第三回
「大名の学問」
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 小林めぐみ
日時 六月一日(木) 午後一時半～三時

実演

場所 体験学習室

◎「昔語り」

日時 四月二三日(日) 午前一〇時半～正午
語り部 山田登志美さん

◎「機織り」
講師 染織工芸家 山根正平さん
日時 四月三〇日(日) 午後一時半～三時

◎「須賀川の絵のぼり製作」
講師 伝統技術保持者 大野青峰さん・大野弘子さん
日時 五月三日(水) 午後一時半～三時

やさしい展示解説会

\*展示解説員による常設展の案内です。
\*毎週土曜日、日曜日の午前一一時半と午後二時から三〇分程度行います。
\*なお、他の行事と重なる場合は開催いたしません。

\*その他、行事等の詳細につきまして
は、月行事予定表やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

五月五日(金・子どもの日)

四〇六月の休館日

四月 三日(月)・一〇日(月)・一七日(月)・
二四日(月)
五月 八日(月)・一五日(月)・二二日(月)・
二九日(月)
六月 五日(月)・一二日(月)・一九日(月)・
二六日(月)・二七日(火)

\*小・中学生、高校生は常設展を無料で
ご覧いただけます。

訂正とお詫び

「博物館だより第79号」のインフォメーションに掲載した「会津年中行事図」の作者名は岩浅松石の間違いでした。訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

福島県立博物館のある会津地方は、現在でも厚い雪に包まれています。今回の「博物館だより」は、四月から六月の三ヶ月間の情報を載せていますが、この三ヶ月は会津地方の人々にとっては、待ちわびた季節であり、山の恵みと景色に会津の良さを実感する季節でもあります。

例年ですと、四月上旬頃からフキノトウにヒル、五月上旬にコゴメ、中旬頃からは、ウド、エラ、タラの芽、コシアブラの芽、ウルイ、ゼンマイ、ワラビなどが陽当たりのよい山の斜面や水辺に顔を出してきます。また、時を同じくして、コブシ、山桜、水仙、福寿草が野山を彩ります。そして、六月の田植えのころには、萌葱色の山が次第に色を濃くしていきます。

しかし、今年の会津は、桁外れの雪が野山を覆っています。地元のお年寄りは、今年の山菜は、遅れるだろうと話しています。山には雪がどつさり残っているため、雪解けたところから次々と、長い期間山菜を楽しめることも話していました。今年の会津は春が長くなりそうです。会津の長い春に会いに来ませんか。企画展「馬」と共にお待ちしております。

【すずき】